

2013年
10月15日

No.175

さざなみ

〒520-2141

大津市大江6丁目23-24

浦谷貞子 気付

さざなみネット

(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)

TEL・FAX 077-545-5154

オスプレイ来るな！日米合同演習反対あいば野大集会

オスプレイ日本にいらない！全国から1100人

沖縄以外での初めての米軍欠陥機オスプレイを使った飛行訓練となる、あいば野演習場での日米合同演習を翌日に控えた6日、高島市住吉公園で「オスプレイ来るな！日米合同演習反対10・6あいば野大集会」が開かれました。

会場は、彦根港から貸切船で参加した80人や貸切バスなどで駆け付けた県内外の参加者1100人であふれました。金融労連の仲間12人、さざなみネットから3人が参加しました。

ふるさとをアメリカ軍に使わせない滋賀県連絡会の杉原秀典代表が主催者あいさつし、「オスプレイ訓練するな、の一点で共同を広げる出発の日にしよう」と呼びかけました。

各団体、各地の代表が連帯あいさつ。全労連の高橋信一副議長は「米軍基地もオスプレイも撤去を」と沖縄連帯行動を続けてきたとして、「沖縄県民の思いは、全国への拡散でなく、日本からの撤去だ」と強調。高知県の代表は「防災訓練」を口実にしたオスプレイの訓練に反対する幅広い共同がすすんでいると報告しました。あいば野平和運動連絡会の大野哲朗共同代表は「日本のどこにもオスプレイが来ていい場所はない。アメリカに



金融労連の旗を掲げ集会に参加

帰ってほしい」と訴えると、「その通りだ」のかけ声が上がりました。

山口県岩国市、京都、大阪の代表も連帯あいさつ。沖縄県統一連からのメッセージが紹介されました。(裏面へ)

参加者・横断幕・のぼり旗で埋め尽くされ すごい熱気の集会

欠陥機オスプレイが滋賀県に来るなんて考えもしなかったし、しかも本土で初めて飛ばすことになるなんてとんでもないことが行われようとしていることに怒りを感じ、ぜひ集会に行かねばと「オスプレイ来るな！あいばの大集会」に参加しました。

多くの人々が貸し切りバスや貸し切り船等で県内外からの参加者であふれ、横断幕やのぼり旗で埋め尽くされ1100人も人が集まり、すごい熱気でした。各地からの闘いの報があり、沖縄をはじめ全国とつながりオスプレイを使った訓練に反対の声をあげましよう、集会宣言を採択した後、市民に訴えながら市内デモ行進を行いました。(浦谷)



岩波 美智子さん 画

(前面から)「沖縄をはじめ全国とつながり、オスプレイを使った訓練に反対の声を広げましょう」との集会宣言を採択した後、参加者は、演習場入り口まで市内をデモ行進しました。

(集会宣言 下に掲載)

合同演習は18日まで。参加部隊は、陸自第3師団第37普通科連隊(大阪府和泉市)約150人と米だい3海兵師団第3海兵連隊(ハワイ州)約80人。オスプレイを使った総合訓練(16日)などを予定しており、「ふるさと連」では監視行動を計画しています。



演習場入り口まで市内をデモ行進

金融ユニオン第1回中央執行委員会

金融ユニオン第1回中央執行委員会が、10月6日愛知労働会館で開かれ、さざなみネットから山崎書記長が参加しました。

(議題)

・活動報告・各支部の状況について
金融労連の大会の報告を受け、金融ユニオンの各支部の定期大会の日程などについて報告を受けました。

・金融ユニオン第5回定期大会の総括について
参加した全代議員・オブザーバーから発言があり、各地の活動の状況が参加者を励ました。今後の課題について討議しました。

・秋季年末闘争について

下期臨給の要求や職場要求の申し入れを全職場で取組み、「職場と生活アンケート」を活用し職場の仲間と積極的に対話することを決めました。

・争議の状況について

東京と愛知での裁判の状況と支援について相談しました。

・機関紙の編集について

・任務分担と運営について



集会宣言

明日10月7日から18日まで、アメリカ軍と自衛隊が、本土で初めて、近くのあいば野演習場で、オスプレイを使った「日米共同訓練」を強行します。

オスプレイは、「殴り込み部隊」である海兵隊を、アメリカが敵とみなす国や地域へ送り込む「侵略輸送機」です。今回の訓練では、自衛隊員と米軍兵士が一緒にオスプレイに乗り込み、敵地陣営を背後から襲います。

安倍内閣は、来年の通常国会で、「集団的自衛権」が行使できるよう法整備を行うつもりです。それを許せば、自衛隊が中東など戦闘地域の最前線へ出かけることが現実のものとなります。今回の共同訓練は、平和憲法の精神を根本からひっくり返す訓練です。

オスプレイは、構造上の大きな欠陥を持っています。今年6月の米ノースカロライナ州につづき、8月には、ネバダ州で墜落炎上の事故を起こしたばかりです。沖縄に配備されたオスプレイは、夜間は飛ばない、基地以外の上空はヘリモードで飛ばないなどの約束をことごとく破り、同機の轟音を耳にした住民は不安が募る毎日を送っています。あいば野での今回の訓練は、高島市民、滋賀県民の生活と命を危険にさらす訓練です。

日本政府は、オスプレイを使った本土での訓練を「沖縄の負担軽減」のためだと言います。しかし、アメリカ軍は、沖縄へのオスプレイの配備数を増やし、訓練基地も増強しています。本土での訓練は、沖縄でのオスプレイの離発着を増やし、沖縄県民の負担をさらに増加させ、同時に、日本全土を危険地帯に変えるものです。「沖縄の負担軽減」は、オスプレイの訓練と配備をやめ、基地を撤去することでこそ実現できます。

今日、わたしたちは「オスプレイ来るな! 日米合同演習反対10・6あいば野大集会」を成功させました。今日の集会を新たなスタートとし、沖縄をはじめ全国とつながり、オスプレイを使った訓練に反対の声を広げましょう。憲法の精神を生かし、平和で安心の社会を実現しましょう。



2013年10月6日

オスプレイ来るな! 日米合同演習反対10・6あいば野大集会